

---

# 仲間

ヒロ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

仲間

### 【Nコード】

N2257Z

### 【作者名】

ヒロ

### 【あらすじ】

どこにでもある高校で、どこにでもある学級が有名になった。7日間のうちに僕たちはいろんなことを学び、いろんなことが起き、いろんなことを乗り越えようとした。そして…。

## 第1話 1日目・朝（前書き）

お待たせいたしました！

新作ができました！ いつもとは違い、恋愛ではありません…（？）

ま…まあ、少しは恋愛も入ってますが…。

これから楽しんでもらえるように頑張りますのでよろしくお願います！

## 第1話 1日目・朝

1年2組。ごくごくどこにでもあるような普通の学級。そんな学級が今や全国的に有名な学級となっていた。僕たちが過ごしたあの7日間…。あの7日間が僕たちを変えていった。

「孝弘<sup>たかひろ</sup>。忘れ物は無い？」

「母さん。もう入学してから1ヶ月が経つんだよ？ それに高校生なんだから大丈夫」

「いやね、孝弘。田中家<sup>たなか</sup>は忘れんぼうが多いからね」

午前8時。僕はいつも通り家を出て学校へと向かう。母さんはかなりの心配性で毎朝、忘れ物が無いかを聞いてくる。僕は今年4月から高校生になった。全く…高校生の僕が忘れ物をするなんて…。

「……教科書忘れた」

昨日、勉強をしようと思って机に出していたことを忘れてた。まあ、勉強はしなかったけど。くっ…何たる失態だ。

「おーい、孝弘」

僕がそんなことを考えてるとバカでかい声が少し離れたところから聞こえた。

「正か…」

やってきたのは松本正<sup>まつもとただし</sup>。僕の小学校からの悪友<sup>あくゆう</sup>だ。

「おはよう。そんなガツカリしたような表情するなよ」

正は来てすぐにそう言った。……僕、何も言ってないぞ？

「おはよう。正、それがわかってるなら声の大きさを考えろって」

僕が言う正は独特の笑い方で笑った。その笑い声も…大きい。思わず耳を塞ぎそうになる。

「おはよう。松本くん、田中くん」

次にやってきたのは相沢恵<sup>あいざわめぐみ</sup>。僕と正とは中学校からの同級生。高校でも同じクラスになった。

「お前ら、まだ呼び捨てじゃないのか？ そろそろ付き合い始めてから3ヶ月だろ？」

正がちゃかすように言う。そう恵は僕の彼女である。数人にしか言っていないのでほとんど知られていないのだが…。

「僕は恵って呼んでるけど、恵が恥ずかしいって」

僕がそう言っただけで恵の方を見ると少し慌てた様子で何かを言おうとしている。

「松本くんにはわからないもん。私の気持ち」

「そうか？ まあ、相手が孝弘だからな」

正が残念そうな目で僕を見る。

「何だよ？」

「んにや。何でも」

僕が怪しそうに正を見ていると正ではなく恵が笑った。

「あはは」

「恵まで…。僕をバカにするな」

「やべつ。恵ちゃん、逃げるぞ」

「うん！」

逃げる正と恵を追いかける。何と言っても2人は逃げ足だけは速い。

「こらー待てー」

「待てと言われて待つバカがいるか。早く来いよ、孝弘！」

正が挑発してくる。そんな様子を見てか、恵は笑っていた。

「くそ。相変わらず逃げ足だけは速いんだから…」

結局、僕は学校に到着するまで正と恵を捕まえることができなかった…。

「はあ、はあ…」

学校に到着した頃には僕の息が完全に上がっていた。

「大丈夫？」

恵がそっと駆け寄ってくる。思わず膝をついていた僕は恵の肩を借りて立ち上がる。

「全く…。こんなんで息が切れるとは…恥ずかしくないのか？」

正が嫌みのように僕に言う。

「うるさいな。僕だって情けないと思ってるよ」

いつもこうだ。僕は運動音痴で体力も全然無い。

「少しは運動しろよ」

対照的に正は運動ができて、これくらいじゃ体力が余っているくらいだ。少し羨ましく思うことがあるほどだ。

「そろそろ教室行かなきゃ。怒られちゃう」

腕時計を見ながら恵が言う。僕も壁にかかっている時計を見た。あと5分しかなかった。

「ほんとだ。早く行かなきゃね」

僕たちは急いで教室に向かった。教室に入るとさすがにほぼ全員が教室にいた。僕たちが入ってすぐに担任の中村巧先生なかむらたくみがやってきた。

「今日の予定は…」

中村先生がいつものように話していく。僕は眠たい目をこすりながら聞いていた。

「1時間目は国語か…」

先生の話が終わり、僕は授業の準備をする。いつも通り変わらな  
い1日が始まった。僕はこの時、昼間にあんなことが起こるなんて  
知るはずもなかった…。



## 第1話 1日目・朝（後書き）

読んでくださってありがとうございます！

いよいよ始まった1年2組の7日間。一体これから何が起きるのか、  
どうなっていくのか…。

第2話目もよろしくお願いします！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2257z/>

---

仲間

2011年12月8日02時01分発行